最新 2024 年 8 月号より抜粋

中華人民共和国成立 75 周年を盛大に祝いましょう!
「聯合総会」第 25．26 届　会員代表大会開催
第 46 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会に参加して　　符順和記
第 46 回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会における横浜華僑総会符順和常務理事の「追悼の辞」
茉莉花女声合唱団　新団長選出
中国語なう
中国は何故“中国”？③　易凡
華文教育の「新たな 100 年」を目指して
運動会開催
廣東同郷会会員大会開催
卓球部　OB・OG 会開催
バスケット部　OB・OG 会開催
鐘皓（ジョンハオ）リサイタル開催　300 人の聴衆を魅了　　劉燕雪
訃報

中華人民共和国成立 75 周年を盛大に祝いましょう!

中華人民共和国成立 75 周年
中日国交正常化 52 周年
祝賀行事予定

●慶祝宴会「ﾛｰｽﾞﾎﾃﾙ横浜」9 月 30 日(月)(招待者のみ)
●慶祝ﾊﾟﾚｰﾄﾞ 10 月 1 日(火)
正午より(雨天中止)
ﾊﾟﾚｰﾄﾞのｺｰｽ:
国慶広場～地久門～西門通り～善隣門～中華街大通り～南門通り～天長門～関帝廟通り～国慶広場
●慶祝獅子舞(採青)16 時より(雨天中止)
●慶祝ｺﾞﾙﾌ
会　場:PGM 南市原ｺﾞﾙﾌｸﾗﾌﾞ日　時:9 月 25 日(水)
AM6:20 集合（受付開始)
AM7:21 ｽﾀｰﾄ
ﾌﾟﾚｰ代:14,800 円含昼食・ﾊﾟｰﾃｨｰ
(参加は会員・会友　要事前申込)

2024 年国慶節ポスター

順調に進む準備作業!

横浜華僑総会 75 周年国慶節実行委員会陳宜華委員長、郭聯輝副委員長、張岩松副委員長の指導の下、ﾊﾟﾚｰﾄﾞ、獅子舞、ｺﾞﾙﾌの慶祝行事の成功目指し、ﾎﾟｽﾀｰ制作、募金活動、広告募集、ﾊﾟﾚｰﾄﾞ参加者募集、国慶広場借地交渉、警察への道路使用申請、車両誘導の警備会社契約、中華学園、校友会、宴会会場との打ち合わせ、など、ﾀｲﾑﾃｰﾌﾞﾙに従い準備作業をこなし、
着々と祝賀行事の成功を引き寄せている。会員・会友のご参加、ご協力をお願いいたします。

中日の小旗を組み立てる総会理監事

「聯合総会」第 25、26 届　会員代表大会開催

6 月 30 日午後、日本華僑華人聯合総会は第 25、26 届の会員代表大会を大阪市阿倍野区の楓林閣で開催した。今回の大会には日本各地の華僑総会と横浜と神戸の中華学校から 50 余名の代表が一堂に会した。横浜からは、謝成發会長、陳宜華副会長、王忠福名誉会長、曽徳深顧問と繆雪峰理事(横浜山手中華学園理事長)が出席した。会員大会は、大阪華僑総会王遵輝副会長兼事務局長が司会を務めた。まず出席した各地の僑会との僑校の代表が紹介され、会議は始まった。

まず、陳焜旺氏をはじめ、ｺﾛﾅ禍の間に他界された華僑界の先達に黙とうをささげ、議事に入った。議長団には大阪華僑総会の趙知理会長と、東京華僑総会の銭江麗子副会長が推挙された。

議事では、陳隆進会長代行が第 24 届(2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日)と第 25 届(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)の決算報告と活動報告を行った。続けて第 26 届の事業計画案について報告がなされ、質疑応答を経ていずれも承認された。そして、常務委員と監事が任期満了を迎えることから、改選が行われ、第 6 届の常務委員と監事候補の名簿が読み上げられ、その経緯が説明され、承認された。

議事終了後、承認を受けた常務委員の互選により新しい届の会長、副会長が選出する運びとなり、会長代行を務めていた東京華僑総会の陳隆進会長が正式に聯合総会の会長に就任し、合わせて横浜華僑総会の謝成發会長、京都華僑総会の楊正武会長、大阪華僑総会の趙知理会長、神戸華僑総会の陳坤儀会長、東京華僑総会の銭江麗子副会長が聯合総会の副会長に選出された。

休憩をはさみ、新たに選出された聯合総会の陳隆進会長は意気込みを述べた。

続けて、横浜華僑総会の曽徳深顧問は、6 月 14 日に日本の国会で成立した「改正入管難民法」に、外国人の永住資格取り消しの要件を拡大する規定が盛り込まれたことについてその経緯を説明し、我々永住者の人権が脅かされていることを訴え、大会は午後 5 時に閉会した。

17 時 30 分から始まった懇親会には、駐大阪総領事館から薛剣総領事、魏有梅副総領事が来賓として招かれ出席した。

陳隆進会長は主催者を代表してあいさつし、続いて開催都市を代表して大阪華僑総会の趙知理会長が、「日本各地から大勢の皆さんが大阪に集まってくれたことに感謝し、抱える課題も多く存在するが、ともに力を合わせて克服していこう」と述べた。

来賓を代表してあいさつに立った薛剣総領事は、日本華僑華人聯合総会の第 25 届、第 26 届会員代表大会が大阪で成功裏に開催されたことに祝意を表した。その中で、薛総領事は「海外華僑は長期にわたり、祖国の国づくり、民族の振興事業に参加しそれを見届け、合わせて中日民間の友好促進のために重要な役割を果たしてきた。今日、世界情勢は動揺し、人類は多くの挑戦を目の当たりにしているが、中国は世界各国と世界とともに知恵と力を集結させ、ともに人類運命共同体を構築していこうと願っている。そして、海外の華僑社会が引き続き愛国、団結、互助の優れた伝統を継承し、絶えず中日友好の基礎を固め、積極的に両国の各領域での交流と協力を推し進めて行こう」と語った。

続いて鹿児島華僑総会の楊忠銀会長が乾杯の発声をし、懇親のための食事会が始まった。参加者らは各自の地区の情況を語り、各々が抱える問題点などを共有し、和やかに懇親会は進行した。中盤では大阪の龍獅団による見事な獅子舞が披露され、場内は華やいだ雰囲気に包まれた。

最後に、神戸華僑総会の陳坤儀会長が閉幕のあいさつをし、明年の再会を約して大会の日程は終了した。

第 46 回相模湖・ﾀﾞﾑ建設殉職者合同追悼会に参加して　　符順和記

私がこの追悼会に初めて参加したのは 1993 年のこと。新聞で「相模湖・ﾀﾞﾑの歴史を記録する会」(以下記録する会)のことを新聞で知り、資料をいただいたのがきっかけでした。当時横浜華僑史の資料を収集していた私でしたが、花岡事件のことを知っていても、この相模湖ﾀﾞﾑ建設にあたって中国から捕虜として中国人兵士や農民が連行され強制労働に従事していたなんて、少しも知りませんでした。

現在追悼会は神奈川県立相模湖交流ｾﾝﾀｰで行われていますが、私が参加した当初は、相模湖湖面に面したなだらかな丘のふもとに建立されていた新「湖銘碑の前でした。参列した遺族や来賓のかた、はじめ他の多くの方は炎天下の中で二度と戦争の悲劇を引きおこさないことを祈り願っていました。

長年この追悼会に参加して学んだ事は「記録する会」の皆様のたゆみない、地道な、粘り強い努力が、現在も続いているという事です。湖面碑の変遷一つとっても、1962 年に建立された慰霊塔の殉職者名には日本人だけで、中国人や韓国朝鮮人の名前は在りませんでした。1979 年に建立された湖銘碑には「工事には中国、朝鮮半島の方々を含め……が従事されたと記されましたが、この時点ではまだ強制連行、強制労働については、触れられていませんでした。1993 年に建立された新湖銘碑に「捕虜として連れてこられた中国人、……」と記され、初めて強制連行、強制労働の事実を広く知らしめました。そしてその碑文とすべての犠牲者名が日本語、中国語、ﾊﾝｸﾞﾙの三か国語で刻まれました。あまりにも画期的な湖面碑に感動を覚えたのを今でも忘れることはできません。そして 2020 年 3 月、湖銘碑の脇に、念願の碑文の英語表記板(説明板)が設置されました。相模湖に観光で訪れる世界中の人々にも、この相模湖・ﾀﾞﾑ建設の歴史を広く知ってもらいたいとの思いが実現したのでした。

日中戦争開始まもなく、日本政府の軍事目的のため河水統制を行い電力と水力の供給を図った相模湖ﾀﾞﾑ建設は、1940 年から 7 年かけて完成しました。戦況の悪化とともにその労働力不足を補うため、日本各地の学生・生徒が動員され、また日本軍により捕虜として連行されてきた中国人、徴用された韓国・朝鮮人など述べ 360 余万人が従事し、83 名の犠牲者が出たと記録に残っています。このうち中国人は 1944 年に 287 名が捕虜として連行されてきて、わずか 1 年 3 か月の間に 28 人もの人が犠牲になりました。強制連行されてきた中国人がいかに過酷な労働に従事していたか、また「記録する会」話日本の犠牲者の遺族への聞き取りを行ったのみならず、当時相模湖ﾀﾞﾑ工事に従事した中国の生存者を訪ね、当時の様子の聞き取りを行い、多くの証言を得ました。これらの記録は毎年開かれる追悼会の折別室に展示されていて見ることができます。(「相模湖・ﾀﾞﾑ建設の歴史」について詳しく知りたいと思われる方は、080-5521-3276 符までご連絡ください)

友好・平和を願ってのｷｬﾝﾄﾞﾙ点火が行われ、追悼会は粛々と行われ、神奈川県や相模原市長をはじめ、中国、韓国・朝鮮代表がそれぞれ追悼の辞が読み上げられ、哀悼の意を表しました。駐日中国大使館からは王琳政治部公使参事官参列し追悼の辞を述べられました。ちなみに東京華僑総会からは王暁さんが来賓として追悼会に参列されました。

閉会後、毎回何名かの方が名刺交換に私のもとにいらっしゃるのですが、特に今年は「永住資格を守る」様々な活動を、精力的に取り組まれた本会の曾徳深顧問に対し敬意を表してくださり、特に相模原日中友好協会の方は、自分たちも行動を起こしたと言っておられたことを、ここに記しておきます。

第 46 回相模湖・ﾀﾞﾑ建設殉職者合同追悼会における横浜華僑総会符順和常務理事の「追悼の辞」

追悼の辞

また暑い夏がやってきました。今年も、相模湖・ﾀﾞﾑ建設殉職者を追悼するこの合同追悼会に参加しました。

今なお神奈川県民の水がめとして給水し、発電しているこの相模湖ﾀﾞﾑの建設に、中国から捕虜として強制連行された兵士や農民、徴用された韓国・朝鮮の方々、そして日本各地から動員された学徒。厳しい労働条件のもと、犠牲・殉職された方々のご冥福をお祈りすると共に、ﾀﾞﾑ建設に参加された全ての方々に、ここで改めて感謝したいと思います。

戦後 79 年の終戦記念日を前に、改めて戦争の放棄をうたった日本の平和憲法の精神が、昨年よりさらにひどく踏みにじられていると感じるのは、私だけでしょうか。

「台湾有事は、日本の有事」と言われて久しいですが、今月 25 日の東京新聞では新聞の見出しに「自衛隊、英軍も防護へ」とあり、木原稔防衛相は英国のﾋｰﾘｰ国防相とﾛﾝﾄﾞﾝで会談し、自衛隊が他国の艦艇や航空機を守る「武器など防護」をｱﾒﾘｶ、ｵｰｽﾄﾗﾘｱに続き英軍に適用すると確認したといいます。さらにｲﾀﾘｱのｸﾛｾｯﾄ国防相を交えた会談では三ヵ国で次期戦闘機の共同開発を推進し、35 年に初号機配備を予定していると書かれていました。また、日米両国政府は 28 日には、外務・防衛担当閣僚による安全保障協議委員会(2 ﾌﾟﾗｽ 2)と、米国が核を含む戦力で日本防衛に関する「拡大抑止」に関する閣僚会合を東京で開催するそうです。2 ﾌﾟﾗｽ 2 では、自衛隊と在日米軍の指揮統制枠組みの見直しや防衛装備品の協力などが論点だそうです。指揮を一本化して、日米軍が一緒に戦うという事でしょうか。

26 日の報道では「南鳥島にﾐｻｲﾙ射撃場」とありました。防衛省が東京・小笠原諸島の南鳥島に、陸上自衛隊 12 式地対艦誘導弾(射程百数十ｷﾛ)の上整備を計画し、地元の小笠原村に伝えたそうです。何か戦争がすぐそこまで迫ってきている気がしてなりません。

そして、日本に住んでいる私たち外国人に対しての「永住者の在留資格の取り消し法案」についていうと、国会ですでに可決されてしまいましたが、外国人の取り締まりで、これまでになく厳しいもので、その条件は、在留ｶｰﾄﾞの不携帯(これまでは罰金で済んだものが)、「故意に税金や社会保障の支払いをしなかった」場合、入管難民法違反や 1 年以下の懲役でも、執行猶予がついていても除外されないという。人手不足を補う外国人労働者の受け入れを進めていながら、できるだけ永住はさせないという政府の都合の良い思惑が見え隠れしています。

話は変わりますが 100 年ぶり、3 度目というﾊﾟﾘ五輪が 26 日開幕しました。「平和の祭典」といわれるｵﾘﾝﾋﾟｯｸ。開会式前に起きた高速列車 TGV の路線網への大規模破壊行為に強い緊張に包まれたといいます。私も開会式のﾃﾚﾋﾞ中継を見ていました。雨が降りしきる中、華やかに行われた、各国選手たちの水上ﾊﾟﾚｰﾄﾞ、ｴｯﾌｪﾙ塔やｺﾝｺﾙﾄﾞ広場、点火式など様々な演出……素晴らしいと思いながらも、連日ｶﾞｻﾞに攻撃を仕掛けて多くの死傷者出しているｲｽﾗｴﾙ、その選手団が水上ﾊﾟﾚｰﾄﾞに参加しているのを見て、複雑な思いになりました。ﾛｼｱのｳｸﾗｲﾅ侵攻、ｲｽﾗｴﾙとｲｽﾗﾑ組織ﾊﾏｽの戦闘、ﾊﾟﾚｽﾁﾅ問題等々。これらの紛争は国家・民族・宗教・歴史的背景など様々な要因があるので、すぐに解決とはいかないでしょうが、せめてこのｵﾘﾝﾋﾟｯｸが平和を築くための架け橋となることを、願ってやみません。

現在地球温暖化について様々言われています。今は手をこまねいていてはならない状況に来ていると思います。個々の国々の努力も必要ですが、手を携えて地球規模で対策を練り、温暖化による影響との戦いに挑まねばならない時が来ているのではないでしょうか。溶けだした北極の氷、水温が高くなった海洋、世界各地で起きている暴風雨、水害、地震、食糧問題等の大自然との戦いを重視して欲しいと思います。戦争をなくすことと地球環境を変えていくことが今後の大きな課題だと思います。

最後に、この合同追悼会の準備、開催にご尽力くださった方々と、ご来場くださった皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

横浜華僑総会
常務理事：符順和
2024 年 7 月 28 日

茉莉花女声合唱団　新団長選出

茉莉花女声合唱団は去る 6 月 11 日に団員総会を開催し、2 年間の活動を振り返り、今後の計画を確認するとともに、役員改選を行った。

2007 年創立時から活動を続けてきた初代ﾒﾝﾊﾞｰ(80 代)から次世代ﾒﾝﾊﾞｰ(40～60 代)にﾊﾞﾄﾝﾀｯﾁされた。新団長には程肖梅さんが選出された。程新団長は団員を代表し、17 年間団に貢献した創立団長の李香玳さんに花束を贈呈した。李さんと劉燕雪さんは今後、相談役として陰から支えていく。

合唱団は引き続き練習に励み、地域での音楽活動や日中友好のために貢献していく。

団員募集

月 3 回、火曜日の 10:30 から 13:00 まで、中華街婦女会舘で練習を行っています。月謝は 5,000 円です。中国と日本の合唱曲を中心に、時にはｵﾍﾟﾗやﾐｭｰｼﾞｶﾙにも挑戦して行く。初心者の方でも、歌が好きで団体活動を続けたい方は大歓迎です。

連絡先:080-9677-7187

(事務局長范)

(茉莉花女声合唱団)

茉莉花女声合唱団 団員総会

中国語なう 128

「三十年河東,三十年河西」

(sānshi nian hedōng,sānshi nian hexī)

【意味】黄河はよく川筋が変わるので、元々川の東側だったところが何年かすると西側に変わっていたりすることから、世の中の盛衰は常に移ろい易いことのたとえ。

今回は、「温故知新」の意味合いを込め、取り上げたのは昔からあることわざの「三十年河東,三十年河西」です。

このｺﾗﾑは「中国語なう」というﾀｲﾄﾙですが、なぜ古いことわざを取り上げたかというと、「三十年」は長くもあり、短くもある時の流れになるので、その点にｽﾎﾟｯﾄをあて、大まかな「三十年」というくくりで、改革開放を経て大きな発展を遂げた中国の言葉表現の移ろいに今回は焦点を当ててみたいと思います。

二十世紀 70 年代の末から改革開放の道を歩み始めた中国は、90 年代に入り一気に高度成長期に入りました。

中国社会の変化を表現する際に、よくこの「三十年河東,三十年河西」という言葉が登場します。

「三十年前、貧しい地域では雑穀類を主食としていて貧乏人と言われたが、三十年後、雑穀類は健康に良い食品だと言われるようになった。」

「三十年前、貧乏なために穴の開いた服を着ていたが、三十年後、わざわざ穴の開いた服を高値で買って着ることがｸｰﾙだと言われるようになった。」

「三十年前、十分に腹を満たすことができず悩んだものだが、三十年後、どうしたらﾀﾞｲｴｯﾄに成功できるか、いろいろな方法を試すようになった。」

そして、時代の流れに合わせていろいろなものの呼び名も変化しました。

以前、職場などを指す「单位(単位)」という言葉は「组织(組織)」になりました。「集体(集団)」は「团队(ﾁｰﾑ)」に、「目录(ｶﾀﾛｸﾞ)は「菜单(ﾒﾆｭｰ)」に、「计划(計画)」は「路线图(ﾛｰﾄﾞﾏｯﾌﾟ)、「努力工作(仕事に励む)」は「打拼(頑張って働く)」というようになりました。

ほかにもまだまだあります、「争论(論争)」は「对话(対話)」に、「减肥(ﾀﾞｲｴｯﾄ)」は「塑身(ｼｪｲﾌﾟｱｯﾌﾟ)」に、「痛快(痛快である)」は「爽歪歪(気分爽快である)」に、「发疯(気が変になる)」は「非理性亢奋(非理性的に気持ちがたかぶる)」、「关系密切(密接な関係)」は「零距离接触(距離感ｾﾞﾛの接触)」に、「理发(理髪)」は「造形设计(造形ﾃﾞｻﾞｲﾝ)」に、「辞职(辞職)」は「跳槽(くら替えする)」にそれぞれ言い方が変化しました。よく言葉は「生きもの」と言われますが、三十年を経て総じて表現がｿﾌﾄになった感があります。

上で紹介した「打拼」や「爽歪歪」ですが、もとは台湾で多く用いられた表現で、いつの時代においても、どのような困難に直面しても言葉を通じて両岸の交流が絶えることなく続いていることの証でしょう。

人に対しての呼称も変わってきました、「穷人(貧乏人)」は「待富者(豊かになるのを待ち構えている者)に、「开除(除名する)」は「优化(合理化する)」に、「裁员(ﾘｽﾄﾗ)」は「向社会输送人才(社会に人材を送り出す)」に、「顽皮孩子(きかん坊)」は「熊孩子(ｸﾏのような子)」と呼ばれるようになりました。

三十年の移ろいは、次のような場面でもその変化が見られます。

「三十年前、大学の卒業証書を手にすれば命運を変えることができたが、三十年後、卒業証書を手にしてもﾃﾞﾘﾊﾞﾘｰの配送員をしている。」

「三十年前、部屋を借りられれば嫁をもらえたが、三十年後、家や車があっても彼女すら見つからない。」

「三十年前、一人の稼ぎで一家を養えたが、三十年後、一家の稼ぎを合わせても一人の子供すら養えない。」

「三十年前、眼鏡をかけていない人の方が、かけている人より多かったが、三十年後、眼鏡をかけた人の方がかけていない人より多い。かけていない人も、ｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞを使っているのかもしれない・・・・・・。」などなど。「三十年河東,三十年河西」、社会の変化は日進月歩、いろいろなものが便利になった反面、古きよきものが失われていくのは、やはりさみしさを禁じえませんね。

中国は何故　〝中国〟？

易　凡

③　華夏、中華、九州、、、

現存する文献の記載によると、〝中華〟の一語は魏晋時代に初見されるが、産まれたのはそれより遥か前と視るべきであろう。魏晋時代の太史令の陳卓が定めた《天文経星》に、中華東門、中華西門が登場する。古代の中国人は星空を三垣(紫微垣、太微垣、天市垣)、二十八宿、合わせて三十一の星区に分けた。《漢書・天文志》には〝太微というは、天庭なり〟と、つまり太微というのは天宮の政府官邸であると説いている。従ってその星々は官職で命名されている。また、垣というのは壁という意味で、太微垣という天宮にも当然壁があり、壁があれば当然門がある。この天宮の東西にある各々三つの門のうち、真ん中の門を中華で命名し、その両脇の門を太陽、太陰、つまり天と地を表わすのによく使われる陰陽で名付けた。〝天地の中にあるものを中国と為す〟。中国は極めて重きをなすものであったので、結局天宮の門といえども、その名に使うのははばかられた。そして、中国と華夏のそれぞれから一字を取って中華とし、太陽、中華、太陰という宮門の系列名称を配したわけである。

ちなみに、近現代から今日に至って最も著名な中華門といえば、南京の中華門(明王朝南都の聚宝門改め)、さらに、北京の天安門広場の毛主席記念堂に当たる処(明王朝では大明門、清王朝では大清門、両王朝の皇城南面正門)にも、かつて中華門があった。ただ、これは一九五八年に天安門広場の拡張建設で撤去されてしまった。南京、北京の二つの中華門の

規模、位置、改名の時代を鑑みれば、中華という名称が現代において極めて重視されているのを感じ取れよう。

中華がわが国の古い名称として頻用されるようになったのは、大よそ西晋の時代からと言われ、中国、華夏と同じように、全国或いは内地を、時には特に中原を指すものであった。《晋書・劉喬伝》に載る劉弘から晋恵帝への上奏に曰く:「今邊陲無備豫之儲、中華有杼軸之困」(いま辺境に防備の蓄え無く、中華に財物なき苦境有り)、この場合邊陲に対する中華ということで、中華は内地を指す。《晋書・陳頵伝》に載る陳頵から王導への上奏に曰く:「中華所以傾弊、四海所以土崩者、正以取才失所」(中華が傾き疲弊したる所以、四海が崩壊したる所以は、まさに才能ある者の採用に当を得ていないからだ)、ここでの中華は全国を指す。《晋書・桓温伝》で桓温の上奏文に曰く:「自強胡凌暴、中華蕩覆、狼狽失據」(強胡の暴虐により、中華は転覆され、狼狽して拠り所を失い)、ここでの中華は中原地域を指す。

中華は、文化においては本来伝統文化を指し、また、民族においては本来漢族を指していた。だが、非漢民族による伝統文化の受容に従い、非漢民族も中華の一部となった。つまり、漢族と非漢民族とが共同して〝中華民族〟を構成した。中華を文化や民族の呼称とするに至っては、多くの文献がそれを証明している。桓温《薦譙元彦表》に:「中華有顧瞻之哀、幽谷無遷喬之望」(中華には敗亡の哀れ有り、幽谷(民百姓)には苦境を脱する望み無し)とある。この時、晋はすでに中原の地を喪失しており、ここで中華と称しているのは、おおかた中原の伝統文化を有している人を指している。《晋書・慕容超載記》で南燕が晋の武将劉裕に滅ぼされようとしているのを記したところで、慕容鎮が韓淖に謂いて曰く:「今年国滅、吾必死之、卿等中華之士、復為文身矣」(今年国が滅び、吾必ずこれに死す、卿ら中華の士は、また文身(いれずみ)となる)。慕容鎮は中原の漢人こそが中華であると認定し、東晋はかえって呉越〝断髪文身〟の族だと称した。ここの中華は伝統文化を指している。

南北朝対立の時代には、中華によって伝統文化を表わすのがより一層鮮明になり、ひいては南朝と北朝が中華の呼称を争奪するまでになった。南朝の言いぶりでは、伝統文化を継承している(が)、地域的に中原地域を離れていても、或いは中華を自称できないとはいえ、それでも文化に従えば、南朝は中華を称する条件を有して居た、と。北朝はこれに納得しない。北魏を中華の正統と自認するのは、(一)鮮卑は黄帝の少子昌意の子孫であり(民族的理由)、(二)洛陽に都を置き、中土に居て、つまり伝統的な中華地域を占拠し(地理的理由)、(三)北魏は漢族の伝統文化を受容するとともにそれを発揚している(文化的理由)、というのである。

中華を以て漢族を指し、しかもこれを政治目的あるいは民族感情を誇張するのに用いるのは、昔からよくあったことである。その最も有名なのはおそらく、朱元璋が元王朝による支配を覆すために発布した北伐の檄文の中で、「胡虜を駆逐し、中華を恢復せよ」の標語を掲げたことであろう。檄文の中でさらに「我に帰する者は永く中華に安んじ、我に背く者は自ら塞外で逃げ回る」とも言っている。中華に対する胡虜では、中華は自ずと族称であって、その主体民族は漢族であり、中華に対する塞外で〝中華〟が指すのは時の人が認める全国である。

〝中華〟の含意が多方面にわたって更新されるのに従い、近代以来斬新な〝中華民族〟の一語が産まれるべくして産まれる土壌が育まれた。考証によれば、〝中華民族〟の一語を最も早く使ったのは梁啓超だと言われている(一九〇二年)。当初、この中華民族は漢族を指していたのだが、一九二二年に《中国歴史上の民族の研究》の中では、「凡そ他族に出逢った瞬間〝我は中国人〟という概念が脳裏に浮かぶ者、この人は即ち中華民族の一員なり」、「故に、凡そ満洲人も今は皆中華民族の一員である」と述べている。つまり、中華民族は中国領内のあらゆる民族を包括し、中国各民族がｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨｰを感じる一体的特徴を具えている、というものである。

以上をまとめると、魏晋時代以降の約千八百年にわたる変化を経て、〝中華〟という名称は、「仰ぎ以って天文に観、伏して以って地理に察する」神秘的理念を包容し、「縦横一万里」の広大な疆域を包括し、「上下五千年」の伝統文化を凝集して、多元一体の〝中華民族〟を描いたものとなる。このような〝中華〟はまさに、「天・地・人を大いに美しくする」と謂えよう。

◇

華夏九州というのは、地理の範ちゅうに属し、多くの通俗的な呼び方があって、〝漢地九州"、〝神州大地"、〝中土九州"などとも称されている。九州が指しているのは、華夏族が最も早く居住し、生活していたところである。それは、冀州、兗州、青州、徐州、揚州、荊州、豫洲、梁州、雍州という九つの地方から成る。(州は一級行政区、いまで言う省に相当する)。

〝州"という字は、商王朝の甲骨文や金文に最も早く現れ、まだ象形文字に過ぎなかった。縦に三本の曲線の真ん中の曲線のさらに真ん中に小さな丸があしらわれている。三本の曲線は河の流れ、中の小さな丸は流れの中に浮かぶ陸地を表わしている。言い方を変えれば、象形文字の〝州〟は河の流れの中にある陸地のこと、金文では甲骨文に似ているが、その後、小篆(秦時代の字体)では書き方が複雑化して、三本の曲線全ての真ん中に丸があしらわれた。丸が増えただけで意味は変わらず、

依然、河の流れの中の陸地を指す。漢時代になるとこれが隷書に、さらに現在の楷書の州へと変化をたどる。
象形文字のよってきたるところは生活であり、生活の中の含意に基づいて表現するというものであった。昔の人が州の字を造るに当たっては、有史以前の大洪水にその源があった。伝えられるところによると、尭、舜、禹の時代、華夏の大地に、とてつもなく大規模な洪水の災難が発生し、尭帝の時代から人びとは絶えず、この大洪水を治めようと八方手を尽くしていた。大洪水が多くの河川や低湿地をうめつくしたので、当時の人びとは地勢のわずかに高いところにしか住めなかった。ついには、人びとはみな高台に住み、洪水はその周りを気ままに流れ、まるで人々は水に浮かぶ陸地に住むという有様であった。百年余りにわたって続いたこの大洪水は、大禹の時代にようやく治められた。ちなみに、禹の父親の鯀も舜帝に命じられて治水に当たったが、成功しなかった。《史記・夏本紀》に「鯀の治水に状(功績)無く、是に於いて(そこで)舜は鯀の子の禹を挙げて鯀に続かせた」とある。この洪水が如何に長期にわたり、規模が大きく、治水の失敗も数々あったかを、この一件からも窺がい知ることができる。
大洪水が治められた後、大禹は天下の諸侯を涂山大会に招集し、自らにもあった過失を反省した後、治水の過程で得られた経験を基に、管理を容易にするべく天下を九つの州に分けた。これが九州の由来である。同時に、大禹は各州から献上された金属(青銅)で九鼎を鋳造し、九つの州と対応させて、天下全体および夏王朝による統治を表した。
鼎というものは本来祭祀に使われる礼器で、当時では貴族や王族しか祭祀を行えなかったが、後に次第に国家権力の象徴となり、後世の国に伝わる玉璽に相当して、後の王朝はみなこの九鼎を得ることは天下(当時としては九州)を手にする象徴とした。
少し脇道に逸れるが、〝問鼎〟という一語がある。《左伝・宣公三年》に、「楚子伐陸渾之戎、遂至於雒、観兵於周疆。定王使王孫満労楚子。楚子問鼎之大小、軽重焉。」という故事が綴られている。意味は、「楚の荘王が兵を発して陸渾の戎を攻めるため、洛水に至り、周朝の領内で武力をひけらかした。周の定王は楚荘王の労をねぎらうべく王孫満を遣わした。そこで楚荘王は(王孫満に)九鼎の大小、軽重は如何様であるかを問い出した」、というものである。楚荘王が鼎について問うたのは周王朝の天下を奪おうという下心があったことから、後に〝問鼎"を使って政権奪取を謀ることを指すようになった。
なお、九鼎は周顕王(?～前三二一年)の時に泗水の彭城の下に沈んだとされている。また、周顕王は生前自らの墓所を造営した後、九鼎をその墓所へ密かに移し、死後ともに埋葬したとも言われている。いつの日か考古学者らによってこれが発掘されると、一体どういうことになるだろう?想像するだけでワクワクする。さらに蛇足を加えると、浙江省の紹興の町から三キロ、会稽山の麓に大禹陵があり、そこに大禹は葬られているという。

◇

神州は、俗称〝神州大地"、又の名〝赤県神州"、〝九州"(中国)とも称されていた。
〝赤県神州"は伝えられるところによると、人皇氏(伏羲氏)時代に、人皇氏が地球全体を統治し、大九州を分けて治めた際に用いたもので、上古大九州という。それは、東南神州を農土、正南次州を沃土、西南戎州を滔土、正西弇州を井土、正中冀州を中土、西北台州を肥土、正北泲州を成土、東北薄州を隠土、正東陽州を申土とそれぞれ言った。そしてこの時の中国の九州というのは、僅かそのうちの東南神州の周りのみで、神州が赤県に近かったので〝赤県神州〟と名付けられた。
〝赤県神州〟の呼称が最も早く現れたのは、《史記・孟子荀卿列伝》のなかで、戦国時代の斉国の陰陽家、騶衍が「中国の名を赤県神州と為す」と言ったことに触れ、後に中国を〝赤県神州〟と称するようになり、時にはそれを分けて、赤県と称したり、神州と称したり、さらには多く神州と称するようになったという。
また、炎帝が統治していた地域を赤県と称し、黄帝が統治していた地域を神州と称して、両者合わせて赤県神州とした、というふうにも伝えられている。
上古大九州は伝説・神話の域になるので、詳細は省略する。

◇

中土:①中等の土壌、②冀州を指す、③中原地域を指す、④中国漢の地を指す。
禹迹:①夏禹の治水で、その足跡は九州に遍くにちなんで、後に中国の疆域を禹迹と称した。②夏禹の治水の業績。
震旦:古代ｲﾝﾄﾞの中国に対する呼称、梵語の Cina の音訳、真旦、旃旦、指難などとも訳されている。震旦等の名称は仏典に散見され、一例を挙げると、「東方は震に属し、是日出の方、故に震旦と云う」といったように。
中国についての雅称、愛称、別称は他にもいくつかあるが、おおむね前記のものの演繹、延伸に当たり、現在ではほとんど使われていないので、ここらで終わりにしよう。完

*「中国は何故　〝中国〟？　易凡」
総まとめは上の URL からﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞできます。

華文教育の「新たな 100 年」を目指して 173
課外活動行う

生徒の視野を広げ、知識を増やし、ﾁｰﾑﾜｰｸを高め、礼儀正しさを身につけるため、本校の小学 3 年から 6 年の生徒が 6 月と 7 月に教員の指導の下、様々な活動を行った。

7 月 10 日、小学 3 年生が鶴見にある森永ﾌﾙｰﾂ工場を見学した。

まず、森永製菓のﾌﾙｰﾂ製造の歴史やお菓子ができるまでの工程が紹介され、工場内の展示ｺｰﾅｰでは、森永製菓の一連の商品の製造技術や製法が紹介された。また、ｽﾀｯﾌが森永のｽﾀｰ商品を紹介し、生徒たちに小さなお菓子のお土産を渡した。生徒たちは熱心に耳を傾け、おいしいお菓子の裏にはたくさんの知識や技術があることを知り、知識を学ぶと同時においしいお菓子を味わえて大満足の様子だった。

6 月 25 日、小学 4 年生の生徒が横浜市環境局の中部水循環ｾﾝﾀｰを訪問した。ｽﾀｯﾌから工場の基本情報を紹介され、環境保護に関する知識や「水ﾘｻｲｸﾙ」の概念を普及させた。その後、生徒たちは水再生の様々な段階と、廃水の処理と再利用に現代技術がどのように使われているかを案内された。講師は生徒たちに水のﾘｻｲｸﾙの基本的な知識を理解・習得させ、同時に「水を節約し、環境を大切にする」という環境保護のｺﾝｾﾌﾟﾄをさらに認識させた。

中学 1 年生は、東京の日本科学未来館を訪れました。未来館では、最新の技術開発に関するﾄﾞｰﾑ映画を鑑賞し、物理学から天文学まであらゆることを学んだ。ﾛﾎﾞｯﾄの模型に触れ、人工知能の力を実感し、宇宙船のｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ倉庫を見学し、宇宙飛行士の宇宙での衣服、食事、住居、移動手段などを理解した。

7 月 3 日、中学 3 年生は歴史的建造物である国会議事堂と東京ﾀﾜｰを見学した。 ｽﾀｯﾌの指導の下、学生たちは国会議事堂の建築史について理解を深めた。

短い時間ではあったが、課外活動を通して、本以外の知識を得ることができただけでなく、視野を広げることもできた。

運動会 開催

5 月 25 日、横浜山手中華学校恒例の運動会が、風薫る晴天の下、北部小学校運動場で開催された。早朝、先生と生徒たちが忙しく整然とした後、みんなの力を合わせて運動会の準備が整った。先生たちの指導の下、生徒たちは 10 日以上にわたって熱心で厳しい練習に励んできた。朝日が昇る中、全校生徒と教師が運動場に整然と整列し、五星紅旗が風になびく中、生徒たちは意気軒昂、準備万端。観戦に訪れた来賓や保護者たちも、それぞれの場所で期待に胸を膨らませていた。同時に、より多くの保護者に競技のｼｰﾝを観てもらい、試合の温かい雰囲気を感じてもらうため、今年も試合を生中継した。また、保護者に試合の全景を理解してもらうため、本校の家庭・学校ﾒﾃﾞｨｱ統合委員会の保護者も現場に行ってﾋﾞﾃﾞｵを録画し、短いﾋﾞﾃﾞｵに編集して公開した。

小学１年生の玉入れ

中学生の人橋大戦

廣東同郷会会員大会開催

６月２日(日)、一般社団法人廣東同郷会(陸煥鑫会長)は東京・上野蓬莱閣にて 2024 年度の会員大会(社員総会)を開催した。

午前 11 時、同会の羅博英理事が司会を務め大会は始まった。

まず、司会者より当日の出席人数の確認がなされ、委任状を含め 241 名の参加を得られたことが報告され、全会員数の過半数を大幅に超える三分の二以上の出席を確認し、大会の開催は有効となった。

冒頭、会を代表しあいさつに立った陸煥鑫会長は、こうして元気に会員の皆さんにお会いできることを大変うれしく思うと語り、年頭に開催された新年会以来約半年ぶりに会員との再会を喜んだ。

続いて会員大会(社員総会)の開催にあたり、朱銘江副会長が議長に推挙され、正式に議事が始まった。 式次第に従い、まず尹星理事が 2023 年度の会務報告を行った。尹理事は 2023 年 4 月 1 日から、2024 年 3 月 31 日までに行われた同郷会の諸行事と対外交流活動などについて報告した。

続いて財務担当の徐永贊副会長と土田修弘会計顧問が当日の「第一号議案」である会計決算、決算案について数値ﾃﾞｰﾀをもとに詳細に説明し、それに対し、余婉齡監事が三名いる監事を代表し監査報告を行い、出席者大多数の賛同を得て承認された。

また、廣東同郷会の所轄省庁である総務省に提出する「公益目的支出計画実施報告」についても、財務担当の徐永贊副会長と土田会計顧問が提出用に準備した資料をもとに説明し、合わせて余婉齡監事がその監査報告を行った。続いて、2024 年度の会務計画について総務担当の尹理事が、予算書については財務担当の徐副会長と土田会計顧問が説明した。 大会の終盤で、符順和副会長より臨時動議が提起され、先ごろ日本政府が閣議決定した永住外国人の在留資格が安易に取り消されることも可能となる「入管法改定案」について説明し、永住権を持つ多くの会員とその家族の正当な権益を守るため、他の僑団とも連携し、今回の改定案の是正強く求めて行こうと訴えた。更に、符順和副会長は先ごろ台湾地区の新しい指導者に頼清徳氏が就任したことにも触れ、「祖国の一日も早い平和統一が実現されるよう」引き続き関心を寄せて行こうと語った。

正午過ぎ、すべての議事が終了しこの日の会員大会は閉会し、引き続き同会場で懇親のための昼食会が開かれた。

同会の夏東開顧問が乾杯の音頭を取り、懇親会は始まった。会員らは久しぶりの再会を喜び合い、旧交を温め和やかなひと時を過ごした。

午後 2 時過ぎ、符副会長が閉会の辞を述べ、懇親会はお開きとなった。

卓球部 OBOG 会 開催

横浜中華学校校友会は、7 月 28 日に毎年恒例の卓球部 OBOG 会を行った。

当日は午前 10 時より学校体育館を開けていただき、希望者が練習をした後、午後 1 時より現役生との練習と試合を行った。今年は学校に 22 名の OBOG が集まり、世代ごとで団体戦ﾁｰﾑを 3 組組めたため、現役生も学年ごとと女子ﾁｰﾑ合わせて 4 組を結成し、まだ団体戦経験の少ない現役に OBOG がﾙｰﾙを教えながらの試合が行えたことは有意義かつ楽しめたのではないかと思う。若い OB の希望で、最後に OBOG ﾁｰﾑ同士の団体戦も行い、おおいに盛りあがっていた。来年は我がｸﾗｽも!と思う OBOG の参加をお待ちしています。交流終了後、21 届の陳学群 OB 会会長が卓球部 OBOG 会を代表して、学

校卓球部に 3 万円の寄付を贈呈した。

午後 5 時半からの懇親会は中華街・福満園本店で開催された。年々世代を超え交流を深めている OBOG 会、今年も昨年に続き、第 1 部に初めて参加の OBOG が数人おり、来年以降も引き続き参加して更に盛り上げていただきたい。連絡がまだ届いていない OBOG の方はぜひ次のﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽへご一報ください。幹事よりご連絡差し上げます。

(ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:pingpangdui@gmail.com 幹事 32 届 黄巧玲)

ﾊﾞｽｹｯﾄ OBOG 会 開催

横浜中華学校校友会は、7 月 27 日に毎年恒例のﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部の OBOG 会を開催した。今回は 20 名ほどの OBOG が来校し、現役生と試合を行った。やはり現役生のほうが断然走れていたが、OBOG も現役生に負けないように一生懸命に走り、すばらしいﾌﾟﾚｰで会場を沸かした。試合が終わった後は全員でﾌﾘｰｽﾛｰ大会を行った。決定率も現役生のほうが高かったが、2 名の OB が入賞を果たすことができた。

夕方からの懇親会は大新園で開催された。こちらでもいろいろな世代の OBOG が集まり、昔話に花を咲かせた。昼の部とはまた違う楽しみがあり、交流を深めることができた。

横浜山手中華学校で出会い、つながり、時間が経っても横浜山手中華学校でつながりを深める。幸せな時間を過ごせたﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ部 OBOG 会であった。

卓球部 OB・OG 会

卓球部懇親会

バスケ部 OB・OG 会

バスケ部懇親会

投稿　劉燕雪

鐘皓(ｼﾞｮﾝﾊｵ)ﾘｻｲﾀﾙ開催 300 人の聴衆を魅了

中国瀋陽出身のｵﾍﾟﾗ歌手鐘皓さんが 7 月 19 日みなとみらいﾎｰﾙでﾘｻｲﾀﾙを開催した。約 300 人余りの華僑華人、日本の友人たちの待ちに待った待望のｺﾝｻｰﾄであった。

歌われたのは、ｵﾍﾟﾗｱﾘｱ、ﾄﾞﾆｾﾞｯﾃｨの歌曲、ｶﾝﾂｫｰﾈ、中国曲、日本歌曲の数々、二部構成で展開された。

母なる祖国を思って歌った「我的祖国媽々」や「那就是我」 は鐘さんの本領発揮、日本の歌曲も情感こめて歌われた。通常「ﾊﾞｽﾊﾞｯﾄﾝ」は老人や悪人の役が多くｵﾍﾟﾗでは地味な存在だが、ﾄﾞﾆｾﾞｯﾃｨの華やかな曲も見事に歌いこなすのが鐘皓さんのすごいところ。白眉はｵﾍﾟﾗ「ﾄﾞﾝｶﾙﾛ」からﾌｨﾘﾎﾟのｱﾘｱ「ひとり寂しく眠ろう」で、今年度 NHK「新春ｵﾍﾟﾗｺﾝｻｰﾄ」にも出演し歌った曲である。鐘さんは日本のｵﾍﾟﾗ界でも大活躍中の若きﾊﾞｽﾊﾞﾘﾄﾝ歌手である。

ｺﾝｻｰﾄの進行は鐘さん自身によって中日 2 言語で行われた。 日本語も流暢で会場は人柄の暖かさが感じらなごやかな雰囲気が流れていた。またこの日は鐘さんの父親の 80 才の誕生日で、「爸爸祝你生日」と舞台から呼びかけた。

ｱﾝｺｰﾙでは「白毛女の楊白労のｱﾘｱが苦難な時代に思いを馳せ切々と歌われた。お得意のｲﾀﾘﾔ民謡「帰れｿﾚﾝﾄへ」が歌われ盛大な拍手が送られた。

鐘皓さんの歌声は人の声の素晴らしさ、強さを私たちに感じさせる。それはどんな楽器もかなわないかけがえのないもの。夏の一夜、鐘さんの歌声を聞いて感じたことである。

右：鐘皓、左：ピアニスト内村将太郎

訃 告

譚佐彬氏(関内峯鶴樓 長男譚慶宏氏、次男譚慶生氏横浜中華学校 32 届生、長女譚肖玲女士 36 届生ご尊父)7 月 20 日に逝去されました。享年 95 歳。葬儀は家族葬にて執り行われました。

謹んでご冥福を祈ります。